

東大和観光ガイドの会資料 歴史 玉川・野火止用水1

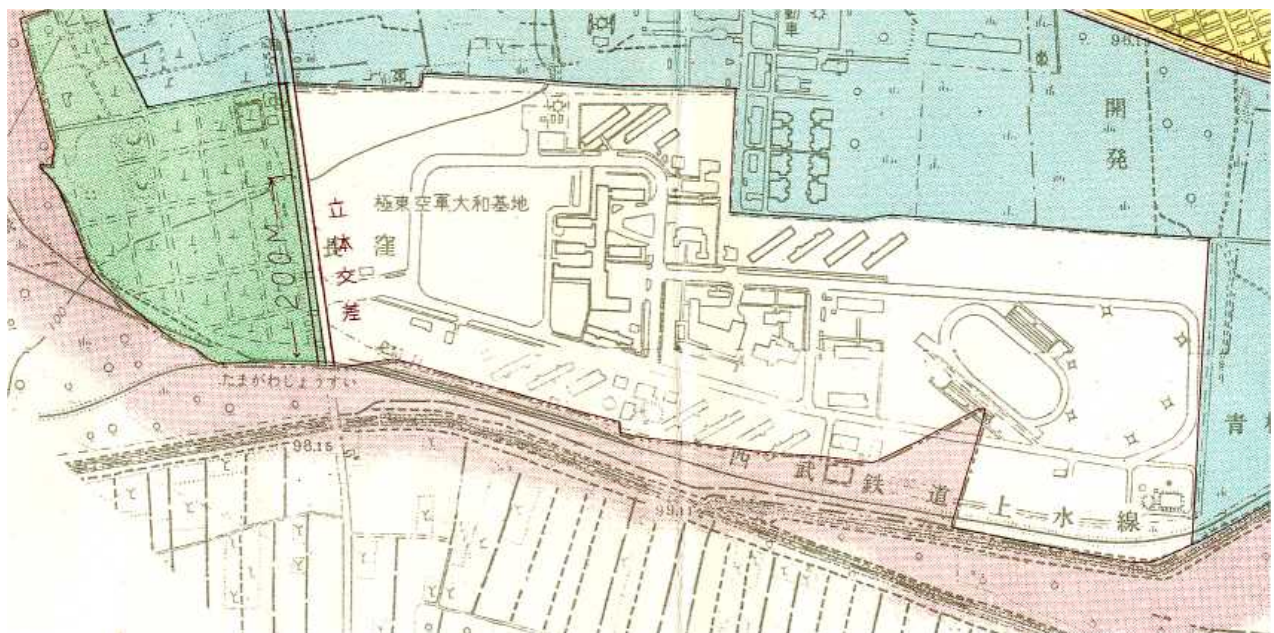
野火止用水分水口

野火止用水の玉川上水からの分水口は自然条件と人知がまさにピタッと結びついた地点にあります。それだけに、実に魅力に富んだ背景が浮かんで来ます。

玉川上水は江戸時代初期、江戸市中の飲料水確保のため、羽村に取入口を設け、四谷大木戸まで素掘りの用水路を開削して、自然流下で多摩川の水を供給しました。一方の野火止用水は玉川上水からの分水を得て、野火止地域に飲料と農業用の水を供給しました。



この分水口は都立東大和南高校の前辺りにありました。現在は東京都水道局小平監視所の沈砂地となっています。



昭和36年(1961)大和町都市計画図



昭和 32 年(1957)の状況

新堀用水は明治初年(明治 3 年・1870 ～ 5 年)に、玉川上水への通船事業が行われた際、野火止用水分水口下流の分水を統合して設けられたものです。



現在は沈砂槽設置のため掘り下げられ、全く形状が変更されています。

この地点は玉川上水と野火止用水の機能と成立を考える上で極めて重要な地点です。以下はこの分水口が何故、現在地に設定されたのかに関する資料です。

ただし、分水口の位置は東大和市の行政区域ではなく立川市域に含まれます。